

## 文化・芸術

版画集「わらべ唄」から五

### 「太郎」

1972年、メソチント、紙  
雁皮紙(がんびし)貼 35・9<sup>cm</sup>×30・4<sup>cm</sup>

秀島由己男 (1934～2018年)

麦わら帽子をかぶった少年の頭上に、鶴や船はかまや風船などの折り紙が浮かんでいます。

熊本県水俣市に生まれた秀島由己男は、同郷の詩人石牟礼道子の詩に版画を制作し、全6点の詩画集「わらべ唄」として刊行しました。本作はその中の一点です。秀島は幼少期、麦わら帽子をかぶってセミ捕りに行きますが、全く捕まえられずに泣いて家に帰ると、お母さんが慰めるために、よく折り紙を折ってくれたといひます。そのころの記憶が本作のモチーフとなっています。

秀島は、昨年10月3日に84歳の生涯を閉じました。当館創設者、故大川栄二とも親交があり、2017年に当館で開催した浜田知明との二人展には、直筆のメッセージをお寄せいただきました。

当館では4月14日まで、秀島由己男追悼展示をおこなっております。当館コレクションから精選した秀島作品をご覧いただき、哀悼の意を表したいとおもいます。つつしんでご冥福をお祈りいたします。

(池田)

### 名画の扉

大川美術館特別展から

